

「地域道德の向上」「読書活動の推進」「タブレット端末の活用」に向けて

南丹市教育委員会 教育長 木村 義二

皆さま方にはこの間、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の防止対策として、健康と安全を第一に考えた教育行政の取り組みに關しまして多大なるご理解とご協力を賜っておりますことに深い感謝とお礼を申し上げます。

南丹市教育委員会では、将来にわたって地域社会の担い手となる子どもたちを地域社会の皆さまとともに育て、地域の教育力を高めることで活気に満ちた社会をつくるため、さらなる教育活動の推進に努力して参る所存であります。

本年度は、今必要とされている「道德」を「地域道德」として位置づけ、「考え、議論する」ことで道德性を高めるほか、読書は学びの基礎力の一つとなることから、すべての世代において読書に親しめる環境を整える取り組みを進めて参ります。

また、昨年度に全ての小中学生に配備したタブレット端末を活用し、子どもの力を最大限に生かした学びの実現に向けて、取り組みを進めて参りますので、より一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

◇南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◇

○ことばの力育成支援員について

学力を形成する上で基盤となるのは「ことば」であり、ことばの力は、思考・表現する力の根幹です。南丹市では、市内11校に「ことばの力育成支援員」を配置して、学校図書館を拠点にしたことばの力の育成に取り組んでいます。

主に学校図書館を中心に図書資料の配架（本の並べ方）の改善や、掲示物等による読書環境の整備を行い、言語環境の充実・整備を図ることで、児童生徒の言語力育成を目指します。

○コミュニティ・スクール(C・S)について

地域・家庭・学校が目指す子ども像を熟議を通して共有し、まち全体で地域の将来を担う子どもたちを育成するとともに、地域創生の実現を目指す仕組みです。

南丹市教育委員会では、令和3年度に全小・中学校に学校運営協議会を設置することができました。

子どもや学校の抱える課題の解決、未来を担う子どもたちの豊かな成長のためには、社会総掛かりでの教育の実現が不可欠であり、各校の特色を生かした取り組みを推進していきます。

○地域道德の取り組みについて（文部科学省指定）

南丹市では道德教育の授業改善と地域道德の推進に力を入れています。昨年度、八木中学校ブロックの幼・小・中学校を、京都丹波の教育推進事業「なんたん学びモデル推進校」として、地域とともに歩む道德教育に取り組んできました。

2年目となる令和3年度は「充実期」として南丹市内すべてのブロックにおいて道德の授業に地域・保護者が参画し、地域道德の定着を目指すとともに、地域の関係団体・自治会との連携も行いながら、令和4年度の「発展期」に向けて取り組みを進めていきます。



生徒会によるあいさつ運動の発信



地域の方と学ぶお米の大切さ

◇各幼稚園・小学校・中学校における特色ある取り組み◇

園部 幼稚園



子どもの探求心に寄り添った保育 ~生き物探索から~

サツマイモの苗植えに地域の畑に出かけ、オタマジャクシなど水辺の生き物を探まえた経験から、また行きたいとの声があり、体験できる場所を探したところ、地域の方が快く田んぼを提供して下さることになりました。

田んぼでは、オタマジャクシやザリガニなどの生き物を泥んこになって必死に探し、園に戻ってからは、生き物の世話を進んでするなど、大切に育てる姿が見られています。自分で捕まえてきたからこそ、愛着を持てたのだと思います。

このように地域の方に支えられながら、生活や遊びの中で様々な体験を積み重ね、幼児の探求心を育む保育をすすめています。

園部 八木中央幼稚園



釘打ち、おもしろそうだな～！！
～地域や保護者の方との触れ合いを通して～

毎年、参観日に3歳児は竹ぼっくり、4歳児は一本下駄、5歳児は竹馬づくりをしてきました。「バランス感覚」「体幹」「すぐに出来なくても、根気強く取り組む力」「友達と励まし合ったり、教え合ったりする力」等、遊びを通して子ども達に身に付けてほしい様々な力が育ちます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、大勢の保護者の方に集まっていたことができなくなり、今年度は地域の方や関係者の方々に協力いただいで、作成することが出来ました。様々な人と触れ合う喜びを感じ、興味・関心を広げ、豊かな体験を積み重ねていけるよう取り組みを進めています。

園部 小学校



オンラインやメールでのインタビューに挑戦！！

昨年度、「コロナ禍の中でも学びを止めない」を合い言葉に、様々な学習を進めてきました。その中の一つに、6年生の職場体験があります。「自分の夢に気づく、未来を築く」をテーマに、職業人インタビューに挑戦しました。

地域コーディネーターにもお世話になり、様々な職種の方々とお話いただきました。現役プロ野球選手や元プロサッカー選手をはじめ、約40の職種の方に、メールやオンラインでお話を聞き、未来の自分の姿をイメージすることができました。

園部 第二小学校



子ども同士で教え合い、高まり合おうとする自主性が、太鼓の音を一つにしています。

今年も6年生の「和太鼓」学習が始まりました。卒業生から受け継いだ「和太鼓にかける想い」を胸に、太鼓を打つだけでなく、聴いている人の心を打つ太鼓となるように学習を積み重ねています。

今年度は「One Heart」を合い言葉に、互いに励まし合い、心を一つにすることで仲間とのつながりを深め、最上級生としての自信を高めていきます。下級生は、学習に取り組む姿勢やその演奏から6年生への憧れをもちます。

こうして6年生の「和太鼓」は園部第二小学校の伝統的な取り組みとして引き継がれています。

八木西小学校



町・自然・歴史・人 八木西 大好き!

八木西小学校では、八木の町・自然・歴史・人など、地域のよさを生かした取り組みや交流を学校運営協議会やPTA・地域の方々と共に進めています。学校の裏にある城山には八木城跡があり、その城主内藤ジョアンの末裔であるオペラ歌手 内藤大さんに3、4年生が内藤ジョアンについて教えていただいたり、ジョアンにまつわる歌の歌唱指導をしていただきました。子ども大人も八木の町を愛してやまない「八木西 大好き!」の心を育てる地域道徳の視点を大切に、町全体があたたかさを包み込まれるよう取り組みを推進していきます。

八木東小学校



リモートによる朝会で本部の児童が児童会目標を発表する様子

左の写真は、八木東小学校の本年度の児童目標です。「失敗は『宝』」という本校のキーワードを受け、「失敗を恐れず、どんどんチャレンジしていこう、その失敗が宝となる」という思いを込め、児童会本部が考えました。各委員会「あいさつ運動」「やさしさを広げるピンクリボン運動」「花いっぱい活動」「〇〇大会」「クイズラリー」など、自分たちの学校を自分たちでよくしていくため、児童自らが発信して積極的に活動を進めています。これからも児童の「自主性」を大切にしていきます。

殿田小学校



日吉の自然を守り育てる大切さを学ぶ機会に!!

「みんな大好き ひよし大好き 夢いっぱいの殿田っ子」の育成に向け、全学年でふるさと学習として、地域の方や伝統文化から日吉のよさに気付き学ぶ機会を設定しています。4、5年生は、森林学習に取り組んでいます。日吉町森林組合の方をゲストティーチャーとして招き、森林面積の多さ、森林環境を管理する大切さ等学びました。また、実際に間伐した木を使っの薪割り体験にも挑戦しました。本校ではこの他、地域の歴史や環境を学ぶ学習、花植え活動などに取り組んでいます。ふるさと日吉を大切にしようとする心の伸張につなげていきたいと考えています。

胡麻郷小学校



児童会が中心となって考えた『ごまっ子宣言』

本校児童会では、「ふるさと胡麻に愛着をもって自ら学ぼうとするごまっ子」という目指す児童像の実現に向けて、日頃から大切にしていることや全校のみんなに広げたい合い言葉などをまとめた『宣言』を創りました。学校運営協議会でも協議いただき、『ごまっ子宣言』として完成させました。今後はこの宣言を地域にも広げることで、ふるさと胡麻に関わる全ての人が愛着をもって口ずさみ、同じ方向を向きながら地域総がかりで児童を育ていける環境づくりを進めていきたいと考えています。

美山小学校



かやぶき民家についての学習の様子

3年生は総合的な学習の時間に「美山のお宝」について学習しています。1学期は、「かやぶき民家」について学習しており、先日、美山町北地区で実施された放水訓練をライブ中継でつないで見学しました。長いサイレンが鳴り響き、放水がスタートしました。青空に向かって放たれた水が茅葺き屋根をぬらしていく様子がよくわかりました。また間近に放水銃を見ることができる位置からも中継映像を配信し、普段は見るのが難しい放水の様子を教室で見ることができ、子どもたちからも歓声が沸き上がっていました。

園部中学校



学級目標発表会上映会の様子

本校では、年度当初に異年齢集団(縦割り集団)を形成し、そこでの活動を通して、個々の自己有用感の高揚や、異年齢集団への所属感及び仲間との連帯感の育成による「質の高い学校集団づくり」を進めています。本来なら、全校生徒が体育館に一堂に会し、各クラスの学級目標を発表し合うアピール集会を開催するところでしたが、今年度は密を避けるため、前もってクラス毎に撮影した学級目標発表動画を各教室で視聴しました。どのクラスの発表動画にも自分たちで決めた学級目標への思いや願いが込められていました。各クラスが工夫した取り組みを継続することで、目標が達成できることを期待します。

八木中学校



生徒会は、訪問先の小学校で「あいさつ」のよさを呼びかけ、下校の「あいさつ」を一緒にしました。

八木中学校生徒会は「あいさつ運動」の取り組みをしています。あいさつができていないという実態を課題として、校内へ呼びかけ運動を活発化させています。また、6月に八木西・八木東小学校へ訪問し、あいさつ運動を町内全体へ広める活動を開始しました。「あいさつで今日も八木町 絶好調!」～笑顔であいさつ 自らあいさつ～のスローガンを掲げてがんばります。この取り組みは町内の園・小学校・中学校が協力し、八木町全体があいさつを通して温かい町になることを願って積極的に活動し続けていきます。気持ちのよいあいさつから充実した毎日を過ごしましょう!

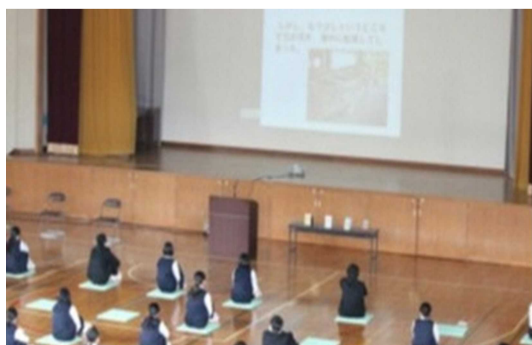
殿田中学校



生徒集会・ブロック集会(自己紹介・レクリエーション)

殿田中学校では、豊かな学校生活を創造するために、月に一度、水曜日の放課後を「特活の日」とし、生徒の主体的な活動に取り組んでいます。6月は生徒集会を実施しました。生徒会本部からあいさつ運動についての呼びかけやブロックの取り組みを行いました。(1~3年生の異年齢の縦割り集団で、3つのブロックを構成し、年間を通して活動します。)ブロックの取り組みは1年生を迎えて、自己紹介の後、恒例のブロック対抗レクリエーションを行い、親睦を深めました。感染症予防のため「会話なし」でゼスチャー等のコミュニケーションが求められるゲームを楽しみました。

美山中学校



「読書の集い」

「こども読書の日」「こどもの読書週間」に合わせて、読書への意欲・関心を高める機会として、4人の先生によるおすすめの本の紹介、図書部の生徒による「命・人権」をテーマとした読み聞かせを行いました。生徒からは「先生の紹介の言葉から面白そうと思ったので、ぜひ読んでみたい」「自らが選ぶジャンルの作品だけでなく、様々なジャンルの作品に触れることで興味や考えの幅が広がろう」といった感想や「読み聞かせで、人間の行動の気高さ・誇りある生き方について考えられた。『人権週間』から『人権習慣』に変えられたら、素敵な大人になれるかな」といった声が聞かれました。

桜が丘中学校



人が生き生きていくうえで、一番大切なものは何か...

桜が丘中学校では、年度をスタートするあたり全校道徳を実施しています。今年度も「人が生きていくうえで、一番大切なものは何か」を考えて、一人一人が全校生徒の前で発表しました。大切だと考えたことを「文字」にし、それを仲間に見せながら、自分なぜそれが大切だと考えるのかを、わかりやすくいねいに伝え合いました。仲間の発表を聞いて、考えが変わった人、変わらなかった人それぞれですが、仲間の考えを受け入れ、自分の考えを整理して今年度を歩み出すための良い機会にすることができました。